

令和 6 年度学校評価【定時制】

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 10 日実施)	総合評価（ 3 月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着、専門教育の充実、共通教科と専門教科のバランスに配慮した教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②専門教育充実のため、三修制希望生徒への支援、資格取得の推進、企業や職業技術校等との連携体制の確立など、夜間定時制高校として魅力をより一層充実する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的活動を推進する。</p>	<p>①基礎学力の定着と工業の専門性向上に対応する教育課程を編成する。生徒が卒業後のキャリアプランを見据えて意欲的に学習に取り組むことができるよう支援体制の充実を図る。</p> <p>②国家資格取得に向けた支援体制の充実、企業や職業技術校等との連携を図り、夜間定時制の工業高校として魅力的な教育活動を展開する。</p> <p>③学校行事や生徒会行事の充実を図る。</p>	<p>①多様な学習ニーズに応じた指導の充実に向けて、組織的な授業改善に取り組む。少人数のメリットを生かし、一人ひとりの生徒に寄り添った授業を展開する。3修制希望生徒に対する学習支援を充実する。</p> <p>②各種検定を活用したスモールステップで丁寧な資格指導・支援体制を充実させる。企業や職業技術校等と連携した工業教育を充実させる。</p> <p>③学校行事や生徒会行事の事前指導を充実させるなど、各行事のねらいを明確にすることにより生徒が主体的に参画できるよう指導する。</p>	<p>①校内研修や研究授業等に全職員で取り組みることができたか。生徒による授業評価で、生徒自身の学びに関する項目に改善が見られたか。3修制希望生徒が卒業に向けて学習を継続することができたか。</p> <p>②国家資格の取得者が前年度より増加したか。企業や職業技術校等と連携することができたか。</p> <p>③学校行事や生徒会行事に生徒が主体的に参画していたか。</p>	<p>①組織的な授業改善に全職員で取り組み、多様な学習ニーズに応じた指導の充実を進めている。全ての3修制希望生徒が、前期の定通併修科目において良好な成績を収めている。</p> <p>②定時制生徒の約半数が国家資格や各種検定等の取得に向けて学習に取り組んでいる。職業技術校と連携の方向性について打合せを実施した。</p> <p>③4月当初に実施される遠足はコロナ禍の影響でこれまで生徒の参加率が低下していたが、今年度は87.9%の生徒が積極的に参加しクラスの親睦を深めることができた。</p>	<p>①組織的な授業改善の取組を継続し、更なる基礎学力の定着と専門教育の充実を図る。個に合わせた指導により、3修制希望生徒の単位修得を支援する。</p> <p>②資格取得に向けて粘り強く取組むことができるよう丁寧な指導・支援体制を継続する。企業や職業技術校と連携の方向性について整理する。</p> <p>③今後も行事に対して生徒達が主体的に参画できるよう、より良い学校行事の在り方を引き続き検討する。</p>	<p>①3修制を希望する生徒が順調に成果を残していることは大変素晴らしい。支援の継続をお願いしたい。模範的なICTの活用授業をデジタルコンテンツ化して動画で共有するなど、組織的な授業改善を進めてほしい。</p> <p>②生徒の半数が資格取得に挑戦していることは評価できる。関係機関と連携を深めて、資格取得の経済的支援も含めてサポートできるように支援してほしい。</p> <p>③学校行事への参加者が増えていることは評価できる。在籍生徒が少ない中、生徒主体の学校行事の運営ができることを期待する。</p>	<p>①組織的な授業改善の取組によって、生徒による授業評価結果に改善が見られた。3修制希望生徒の半数ではあるが、次年度の卒業に向けて単位習得できた。ICTを効果的に活用した更なる授業改善が今後の課題である。</p> <p>②在籍生徒の半数が資格取得に挑戦することができた。資格試験の受験率の更なる向上が課題である。関係機関と連携を深める必要がある。</p> <p>③学校行事については生徒の希望も取り入れながら特に遠足の参加率が向上させることができた。生徒数が減少している中でも各行事において生徒の参加率を向上させる必要がある。</p>	<p>①組織的な授業改善のテーマとして、ICTを利活用した授業づくりに引き続き取り組んでいく。新課程三修制生徒の卒業に向けて支援体制を充実させる。</p> <p>②資格取得の有用性を生徒に伝える取組を粘り強く実施する。関係機関と連携した支援の在り方について整理する。</p> <p>③学校行事の在り方について、生徒が自分事として主体的に取り組める充実した内容の企画運営となるよう指導・支援し参加率向上に努める。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①個に応じた支援のための組織的な教育相談体制を確立するとともに、基本的生活習慣の確立に向けたきめ細かい生活指導に取り組む。</p> <p>②部活動の活性化や各種コンテスト、競技会への参加を通して、生徒の達成感、連帯感、責任感を涵養する。</p>	<p>①生徒一人一人に対応できる相談体制を確立するとともに、生徒の情報を共有し、担任、学年外でも生徒の対応をしやすいとする。また、基本的生活習慣の確立に向けたきめ細かい生活指導に取り組む。</p> <p>②「神奈川県立学校に係る部活動の方針」により、部活動の方針を策定し、教育課程と連携した部活動の活性化を図る。</p>	<p>①登校指導時の声掛けにより生徒の対応から気持ちの浮き沈み等を見取る。生徒から話しやすいように声掛けをして個々の相談を受けやすくする。</p> <p>②新たに策定する方針に従い年間指導計画を作成することで計画的な活動を行い、部活動の活性化に努める。</p>	<p>①登校時における声掛けを行う。複数の職員で個々の生徒を観察して生徒の変化を読み取るように努める。また、変化が見える生徒については担任、学年の職員と情報交換する。</p> <p>②年間を通して部活動に参加した生徒が増えたか。</p>	<p>①今年度も正門・昇降口において生徒の体調把握と基本的生活習慣の確立に向けた登校指導・声かけを毎日行い、個別指導へつなげることができた。</p> <p>②学期に1度の部活動集会で活動計画を立てながら部活動の活性化を進めることができた。今年度もバドミントン部は全国大会へ出場。バスケットボール部は西相・湘南地区定時制通信制スポーツ大会へ参加した。</p>	<p>①生徒の登校時間が遅れ気味になってきているため基本的生活習慣の定着を目指す。引き続き校内指導体制の充実を図る。</p> <p>②部活動が活発になっても怪我等のアクシデントが極力防げるような活動方法を検討・推進していく。</p>	<p>①継続的な登校時の声かけが定時制生徒の安定した高校生活に反映されている。今後も生徒理解を図り、課題や困難を早期発見・対応、家庭との連携など生徒理解の精度を高めてほしい。</p> <p>②定通大会への参加は部活動の活性化に繋がっていると思う。今後も生徒の主体的な活動の支援を期待する。</p>	<p>①登校時の声かけに対して生徒が困っていることを相談していくことがある等、一定の有効性を感じるが、全体的には登校時間の遅れ気味な生徒が多いため登校時間を早めるための指導が必要である。</p> <p>②部活動においては、バドミントン部は定通全国大会に連続出場し団体戦3位。バトン部もマイコンカー全国大会に連続出場する等、好成績を収めた。引き続き活動の活性化をめざしたい。</p>	<p>①登校時における声かけを継続する中から生徒の困りごとや課題を捉え、担任や家庭との連携をとりながら必要な支援が早急にとれる体制づくりを検討する。</p> <p>②これからも生徒の主体的で充実感・満足感のある活動を最大限優先しながら、引き続き部活動の実施率向上をめざして活性化と大会等への参加促進を図っていく。</p>

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導、支援の充実を図る。 ②これからの時代を生きて行くうえで必要な資質や能力を育成するためのキャリア教育を推進する。	①個々の生徒が卒業後の進路に対し、具体的なイメージが持てるよう指導する。 ②キャリア教育を推進するためのプログラムの充実を図る。	①LHR や面接等を通して、早い段階から生徒が卒業後の進路について、具体的に考えることができるよう指導する。 ②キャリア教育のねらいを明確にし、講演会等を実施することで、生徒が主体性を持って将来を考えることができるよう努める。	①個々の生徒の卒業後の進路希望を把握し、進路実現に向けた指導をすることができたか。 ②キャリア教育のねらいに沿った企画を実施することができたか。	①生徒が主体的に取り組めるよう支援し、卒業予定者6名中1名が就職内定し、1名が進学予定。現在4名が進路活動継続中である。 ②今年度も小田原高校と合同で進路懇談会を開催することで生徒達のキャリア意識が高まった。	①自己の進路実現に向けた意識付けを早期から継続しながら、学年や進路担当だけでなく全体で連携して組織的に支援できる体制を構築する。 ②卒業後の進路に向け自分事として取り組めるようなキャリア教育に資する内容の講演会等を実施・検討する。	①生徒が進路実現に向けて行動していることは大変評価できる。さらに、学びがどのように自身の進路に繋がるか指導できると良い。 ②定時制との連携は時間的に難しいかもしれないが、地域が実施している事業も活用できると良い。	①職員全体で情報共有し、卒業生5名に対し、各生徒の希望に沿った適切な進路支援ができている。 ②小田原高校と合同で進路懇談会を開催することで地域の企業の方から講話を受け、具体的なキャリア意識を高めることができた。	①早期の段階から情報を共有することで卒業までに進路先を確実に決定できるための支援を今後も継続する。 ②次年度についても生徒のキャリア意識が高められる行事内容の検討を行う。
4	地域等との協働	①地域産業や地域社会との連携、協働による教育活動の充実に取り組む。 ②地域や中学生に工業高校の魅力・特色を発信するため広報活動の充実を図る。	①地域産業・地域社会、近隣の小中学校等との連携・協働に取り組む。 ②学校説明会や見学会で、本校定時制の魅力や特色を丁寧に説明する。また、地域や中学校にアピールするため、HPを活用し、魅力ある取り組みや活動等の広報活動を充実させる。	①文化祭に地域の方を招くなど地域と連携・協働した行事を実施するとともに、生徒の自己肯定感を育むため、地域の小中学校で行われる行事等に参加する取組の充実を図る。 ②学校説明会や見学会を通じて本校の魅力や特色を、中学校へ丁寧に分かりやすく伝えられるよう、企画内容を工夫し、HPを活用して、学校の特色がより分かる日頃の授業や実習など普段の工業高校らしい様子も随時発信していく。	①地域の方や近隣の小中学校等との連携・協働した取組を充実させることができたか。 ②本校の特色である定時制や資格取得について、分かりやすく説明できたか。HPをこまめに更新し、その内容を充実することができたか。また、定時制の広報活動の充実を図ることができたか。	①マラソン大会、体育祭に多くのPTA保護者の参加や協力を得ることができた。地域貢献活動では日頃の感謝を込めて通学路のゴミ拾いを実施し地域の美化に貢献できた。 ②部活動や遠足、体育祭等の行事が行われる毎に、HPを更新し、本校の魅力をアピールすることができた。	①保護者だけではなく、近隣の小中学校との連携・協働できる活動の推進に向け引き続き検討していく。 ②引続きHPの更新に努めるとともに、本校定時制の特色をさらに分かりやすく丁寧に伝わるように、内容や構成を工夫するよう努める。	①学校行事や生徒の活躍などを地域に積極的に発信し、生徒が地域で活躍できる学校を目指してほしい。また、地域産業や中高との連携、協働についても検討すると良い。 ②地域の町内会報や回覧板に学校の様子がわかるような広報を行うことで、地域とのつながりが深まることを期待する。また、HPだけではなく、SNSの活用等も検討すると良い。	①今年度もマラソン大会、体育祭に多くのPTA保護者の参加をいただけたとともに、日頃の感謝を込めて生徒達が主体的に通学路のゴミ拾いを実施し地域の美化に貢献できた。 ②HPを積極的に活用し、定時制の生徒の活動や学校の様子を、地域や中学校に発信することができた。ただし、HPだけでなく他の方法で情報発信ができるか検討する必要がある。	①各行事について地域への情報発信をしながら、保護者だけではなく、近隣の小中学校との連携・協働できる活動の推進に向け引き続き検討していく。 ②HPをより分かりやすい内容に整理し、閲覧しやすいよう工夫する。また、回覧板を定期的に回し、地域へ情報発信を行い、地域連携に努める。
5	学校管理 学校運営	①生徒が安心して学校生活を送れるよう学習環境の整備、防災体制の整備に取り組む。 ②研修による意識啓発、業務の共有、協働、効率化をめざし、働き方改革の推進と不祥事の未然に防止を図る。	①感染症の動向を見極めつつ、学習環境の整備とICTの活用に向けた校内体制の整備の充実を図る。また、生徒の防災意識の向上と校内の防災体制の強化を図る。 ②各グループ・班の業務内容や分担を再点検し、業務の相互補助や協働を進め、効率化と進行管理の徹底を図る。また、不祥事に対する当事者意識を醸成し、事故の未然防止につなげる。	①感染防止への意識を向上させる。ICTの活用に向けて生徒への支援、教員の研修を充実させる。また、防災訓練や防災教室を実施し、周囲の協力、状況に応じた生徒の防災行動を身に付けさせる。 ②各業務の共有化により、主・副担当の相互補助を進め、必要に応じて全体での協働作業による効率化を図るとともにGLや班長は、業務の進行管理に気を配る。また、不祥事ゼロプログラムをもとに不祥事防止研修会を設定する。	①感染防止対策を徹底することができたか。生徒も教員もICT活用に取り組むことができたか。防災訓練や防災講演会の実施により、生徒の防災意識の向上を図ることができたか。また、地域・保護者との協力体制を整備することができたか。 ②職員相互の連携が取れて、業務が一人に集中することなく、遅滞なく業務が遂行できたか。また、不祥事が起こることがなかったか。	①校内での感染防止対策を徹底することができた。ICTの活用場面は年を追うごとに増しており、教育的活用に関しても着実に進んでいる。11月の夜間防災訓練・防災講演で、生徒の防災意識の向上に役立てた。また、地域住民や保護者との連携を図ることができた。 ②各グループ、各班の業務内容の適正を把握した。また、職員全体にTeamsの活用が浸透したことで円滑な業務の遂行、進捗管理ができた。	①新型コロナウイルスが5類感染症に移行してから1年が過ぎた。学校全体で感染防止への意識の低下を防ぐ。ICT活用に向けての教員同士の情報共有を継続する。予定されている防災教室においても、地域と連携を大切にし、情報共有が実施できるよう検討する。 ②全職員相互の連携や各グループリーダー的確な進捗管理により、業務が円滑に進んでいる。引続き、不祥事防止を徹底し、各業務を遺漏なく進める。	①防災情報や防災訓練の成果を反映した危機管理マニュアルの作成に取り組むとともに、ICTを活用した危機管理マニュアルの情報共有を推進することを期待する。意識改革ができたとの評価に対し、具体的にどのような行動に繋がっているかフォローしてもらおうと良い。 ②業務推進状況の見える化を図り、円滑な業務遂行が出来ていることは評価できる。今後も不祥事防止の徹底を期待する。	①今年度はより実践的な防災訓練を行ったことで、生徒や職員の防災意識が向上したこと、地域との協力体制を整備することができた。 ②各グループの業務分担を見直すことにより、業務の均等化を図った。不祥事防止研修会等を通じて啓発活動を継続した。TEAMSによるサービスの徹底を図った。	①防災訓練での振り返りをよりしっかり行い、生徒や職員、地域住民との情報共有に活かす。 ②職員全体で業務の標準化をさらに進める。引き続き、当事者意識を持てるような研修等を実践すると同時に、働き方改革を柱に事故の起こりにくい職場環境整備を進める。